

一般社団法人日本医療薬学会
平成 29 年度第 3 回定例理事会 議事録

一．開催日時：平成 29 年 6 月 6 日（火） 13 時 ～ 16 時 30 分

二．開催場所：日本医療薬学会会議室

三．出席者

会 頭：佐々木 均

副会頭：井関 健、奥田 真弘、山田 安彦

理 事：伊藤 清美、大谷 壽一、川上 純一、崔 吉道、佐藤 淳子、
千堂 年昭、武田 泰生、濱 敏弘、峯村 純子、宮崎 長一郎、
望月 眞弓、山田 清文

監 事：大石 了三、山元 俊憲

年会長：大森 栄

陪席者

顧 問：五十嵐 邦彦、木平 健治、山本 信夫

事務局：星 隆弘

欠席者

理 事：青山 隆夫、出石 啓治、松原 和夫、脇山 尚樹

監 事：安原 真人

四．議長：佐々木 均

五．会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 16 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六．議事の経過の概要及びその結果

1. 平成 29 年度第 2 回定例理事会議事録の確認

議長より、本年 3 月 24 日に開催された平成 29 年度第 1 回定例理事会議事録を基に議事内容の確認が行われ、修正等がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。

続いて、前回理事会から昨日までに開催された各委員会等の会務状況が報告された。

2. 第 9 回定時社員総会議事録の確認

議長より、本年 3 月 24 日に開催された第 9 回定時社員総会議事録を基に議事内容の確認が行われ、修正等がある場合には本理事会終了時までには指摘するよう要請があった。

3. 協議事項

(1) 平成 29 年度学会賞各賞の受賞者の選考

1) 功績賞受賞者の決定

議長より、今年度の功績賞受賞候補者の選考に係る功績賞選考委員会での審議結果として、候補者 2 名を推挙したこと及び選考理由が説明された。協議した結果、次の 2 名への功績賞授与が了承された。(以下、五十音順)

- ・ 井関 健 氏 (北海道大学大学院薬学研究院 医療薬学部門医療薬学分野)
- ・ 松原 和夫 氏 (京都大学医学部附属病院 薬剤部)

2) 学術貢献賞受賞者の決定

議長より、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会の松原委員長より提示された資料に基づき、今年度の学術貢献賞受賞候補者に係る選考結果として、応募者 1 名、受賞候補者なしという結果及びその理由が説明され、了承された。

3) 奨励賞受賞者の決定

議長より、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会の松原委員長より提示された資料に基づき、今年度の奨励賞受賞候補者に係る選考結果として、応募者 5 名、受賞候補者 1 名を選考したこと及び選考理由が説明された。協議した結果、次の 1 名への奨励賞授与が了承された。

- ・ 河添 仁 氏 (愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)

4) 論文賞受賞論文の決定

議長より、論文賞選考委員会の脇山委員長より提示された資料に基づき、今年度の論文賞受賞候補論文に係る選考結果として、受賞候補論文 3 編を選考したこと及び選考理由が説明された。協議した結果、次の 3 編に論文賞を授与することが了承された。

- ・ 「STOPP Criteria を用いた高齢者のポリファーマシーに対する薬剤師による介入」
<著者>
小倉史愛、木村丈司、宇田篤史、戸田飛鳥、赤澤由子、山本和宏、五百蔵武士、西岡達也、久米学、槇本博雄、平井みどり
(医療薬学 Vol. 42, #2, 78-86)
- ・ 「乾燥ろ紙を用いた母乳中の抗アレルギー薬 cetirizine・levocetirizine 測定系確立」
<著者>
齊藤 順平、八鍬奈穂、鈴木朋、中島研、村島温子、左合治彦、石川洋一
(医療薬学 Vol. 42, #10, 661-669)
- ・ 「国内自発報告データベースを用いたデフェラシロクスと他剤の併用による急性腎不全リスクのシグナル検出とケースコントロール研究による評価」
<著者>
水野貴仁、梅村拓巳、酒井隆全、深津昌弘、山田哲也、梶口智弘、田辺公一、大津史子、後藤伸之、鷺見繁宏
(医療薬学 Vol. 42, #11, 717-726)

5) Postdoctoral Award 受賞者の決定

議長より、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会の松原委員長より提示された資料に基づき、今年度の Postdoctoral Award 受賞候補者に係る選考結果として、応募者 11 名、候補者 6 名を選考したこと及び選考理由が説明された。また、今回は本 Award の受賞者数の上限 5 名を超えて 6 名を選考した理由も説明された。協議した結果、次の 6 名への Postdoctoral Award 授与が了承された。(以下、五十音順)

- ・ 石田 卓矢 氏 (浜松医科大学医学部附属病院 薬剤部)
- ・ 植田 貴史 氏 (兵庫医科大学病院 感染制御部)
- ・ 岡田 直人 氏 (徳島大学病院 薬剤部)
- ・ 加納 大輔 氏 (国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 薬剤部)
- ・ 竹内 一平 氏 (桶狭間病院 藤田こころケアセンター 薬局)
- ・ 地寄 悠吾 氏 (京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター)

(2) 名誉会員の委嘱候補者の推薦

議長より、本学会の社員総会の決議を経て委嘱する名誉会員の候補者として、名誉会員推薦基準内規の要件を満たす下記の 4 名を推挙する主旨説明があった。協議した結果、本件は了承され、第 9 回臨時社員総会に協議案件として諮ることとした。(以下、五十音順)

- ・ 大石 了三 氏 (日本医療薬学会監事、九州大学名誉教授)
- ・ 城武 昇一 氏 (元横浜市立大学准教授)
- ・ 宮本 謙一 氏 (金沢大学名誉教授)
- ・ 矢後 和夫 氏 (北里大学名誉教授)

(3) 平成 29 年度認定薬剤師制度における認定審査結果

奥田副会頭より、第 1 回認定薬剤師制度委員会 (5 月 30 日開催) で審議した認定薬剤師試験の受験資格、指導薬剤師の委嘱資格、研修施設の認定資格の各資格要件への適合性に係る判定結果の説明があった。

1) 認定薬剤師の受験資格審査

今年度の認定薬剤師には 139 名より申請があり本委員会で審議した結果、138 名が薬物療法専門薬剤師・認定薬剤師認定試験の受験資格を有すると判定したこと及び不合格理由が説明された。また、うち 15 名が指導薬剤師の委嘱との同時申請者であることが説明された。協議した結果、当該審査結果が了承された。(なお、指導薬剤師の委嘱と同時申請をした者が当該認定試験に合格した際には、認定薬剤師の認定と指導薬剤師の委嘱の双方が認められる)

2) 指導薬剤師の委嘱審査

今年度の指導薬剤師には 36 名より申請があり本委員会で審議した結果、33 名が指導薬剤師の委嘱要件を満たしていたと判定したこと及び 1 名の不合格理由が説明された。協議した結果、当該審査結果は了承された。(委嘱日：本年 6 月 1 日、委嘱期間：本年 1 月 1 日から委嘱者が受けている認定薬剤師の認定期間の満了日まで)

3) 認定薬剤師制度研修施設の認定審査

今年度第1期目の認定薬剤師制度研修施設には13施設より申請があり本委員会で審議した結果、従来の判定基準に鑑み、全13施設を認定薬剤師制度研修施設として認定可能と判定したことが説明された。協議した結果、当該審査結果は了承された。

(認定日：本年6月1日、認定期間：本年1月1日から5年間)

4) その他

認定薬剤師制度委員会から理事会への相談事項として、今年度より実施するフレッシュ・カンファランスへの参加や発表の実績を、認定薬剤師制度の新規及び更新の各申請において、本学会主催の年会、医療薬学公開シンポジウムへの参加や発表と同等に取り扱うことの是非を問う相談があった。協議した結果、本件は提案通り了承された。

なお、参加実績の対象として、本学会が主催する薬物療法専門薬剤師やがん専門薬剤師に関する講習会の参加(オープン参加のものに限る)も含めて認めることとし、今後、認定薬剤師制度規程の改正に係る協議を進めるよう提案があり、認定薬剤師制度委員会で検討を進めることとなった。

(4) 公益法人化検討特別委員会の新編成、委員会委員の増員

議長より、従前からの検討課題となっていた公益社団法人への変更に向け事務局体制が整いつつあり、具体的な検討を進められる段階になったことより、公益法人化検討特別委員会を編成し協議を進める方針が説明された。本特別委員会の委員として、会頭、副会頭3名、総務委員長、財務委員長(以上の6名を充て職)及び宮崎理事、アドバイザーとして安原監事及び五十嵐会計顧問を含めた9名をもって編成する案が示された。続いて、専門薬剤師育成委員会・大学教員認定制度検討WGの委員として、小林昌宏氏(北里大学、同病院)の追加委嘱が示された、協議した結果、当該方針及び委員会の編成・追加委嘱は了承された。

(5) 医療薬学学術小委員会の追加設置に係る検討

山田(清)理事より、医療薬学学術委員会(5月11日開催)において、第2番目以降となる新たな医療薬学学術小委員会(以下、小委員会)に係る協議を行い、小委員会活動の方向性、具体的な活動内容、小委員会の編成・運営体制及び3つのテーマを示す形をもって公募を実施すること。採択については、医療薬学学術委員での審議と理事会の了承を経て決定することが説明された。望月理事より、学術会議の医療系薬学分科会では、医療系薬学研究の推進に関する検討報告を取りまとめる予定となっており、当該情報が参考になるのではないかという意見があった。また、小委員会の採択件数については、実際に小委員会が活動する平成30年度の予算案を次回の理事会で協議することより、山田(清)理事は両者を合わせて改めて医療薬学学術委員会を開催し、次回の理事会に本件に係る公募案を提示する方針であることが述べられた。

(6) 平成30・31年度 役員候補者選挙公示、スケジュール

千堂理事より、平成 30・31 年度役員候補者選挙の公示案及び同候補者の選出スケジュールに係る説明と出席役員に対する本選挙への立候補の周知が図られた。

続いて議長より、役員の立候補に係る任期制を導入して 3 回目の選挙を迎えるにあたり、現在、暫定措置を含めた 2 期目の理事が多い状況に鑑み、望ましい役員の交代や次期会頭候補の選任のあり方に関する議論の必要性が述べられた。本件については、現会頭の就任期間中に議論を進めることが確認された。

(7) 第 27 回年会における保険薬局薬剤師認定制度検討 WG による企画

宮崎理事より、第 27 回年会（千葉市幕張）の 3 日目の午後 13 時 30 分より 2 時間にわたり、幕張国際会議場の一角において、保険薬局薬剤師認定制度検討 WG による企画として保険薬局薬剤師が臨床研究に取り組むための交流フォーラムの開催計画が説明された。テーマは「薬局薬剤師による研究活動始動！！－薬局のエビデンスを残そう」と題し、中山健夫氏（京都大学大学院医学研究科）による基調講演のほか、伊藤譲氏、吉山友二氏、腰山節子氏、横井正之氏の 4 名による薬局における臨床研究の探索から論文投稿に至るまでのレクチャー講演を予定している。

また、大森第 27 回年会長より、公募シンポジウムには数多くの演題が登録され、また多くの演題が不採択となっている状況に鑑み、本企画の実施については第 27 回年会のプログラムとして認めることはできないことから、あくまで医療薬学会の委員会活動の実施のために当日の会場を提供するものであることが説明された。また、来年度以降の年会においても年会長の立場を踏まえ、学会内の委員会の企画といえども計画性を持ち、適切な時期に演題登録をすべきであるという見解が示された。

(8) 日本環境感染学会総会・学術集会の合同シンポジウムへの協力

議長より、第 33 回日本環境感染学会学術総会・学術集会（平成 30 年 2 月 23 日・24 日）より、創薬や抗菌薬の適正使用を含めた薬剤耐性菌対策（AMR 対策アクションプラン）に関する本学会との合同シンポジウムの開催提案があり、具体的には本企画のオーガナイザーとして 1 名の推薦依頼を受けたことが説明された。協議した結果、本件を了承することとし、本学会より北原隆志氏（長崎大学病院）を推薦することとした。

(9) 年会等の発表における倫理審査委員会の承認取得、専門薬剤師申請時の症例報告と個人情報保護法への対応

議長より、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づき、倫理審査の受審及び承認取得が課されている中、本学会主催の年会やシンポジウム等においても同指針の適用を受けるものが多いと考えられ、本件に係る対策の必要性が説明された。同様に、個人情報保護法に対応した専門薬剤師申請時の症例報告のあり方（書き方）についても検討の必要性が示された。協議した結果、本学会の取扱いを会員に周知すると共に速やかに実施することを目標とするほか、具体的な対策については新たに WG を編成して検討することとした。なお、当該 WG の編成にあたり、佐藤理事を本 WG の委員長とし、次年度開催の千堂年会長をメンバーに加えること。また望月理事より、慶応大

学病院の臨床研究推進センターの教授で本件に詳しい先生の参画が提案された。当該WGの編成については、他の委員を含めて井関副会頭がコーディネートすることとなった。

(10) その他

1) 抗菌薬適正使用実践ガイドンス（案）

奥田副会頭より、本理事会に適宜報告・意見を求めてきた8学会が共同で策定している抗菌薬適正使用実践ガイドンスの最終案の紹介と内容に関する意見聴取があった。

2) 第9回臨時社員総会の開催日時

議長より、第9回臨時社員総会を第27回年会の2日目（11月4日（土））の8時30分より、第11会場（東京ベイ幕張2Fホール1・2）で開催することが報告された。

3) 医療薬学誌の掲載広告の集稿

事務局より、医療薬学誌に掲載している企業広告について、この数ヶ月間で掲載広告が減少している状況と役員に対する集稿への協力依頼があった。

4. 報告事項

(1) 第27回医療薬学会年会の準備状況報告

第27回大森年会長より、同年会の準備状況として、3日間の日程表を基にプログラム、時間及び会場割等の進行に係る概要、特別講演、教育講演、特別企画シンポジウム、特別セッション、国際シンポジウム、日病薬の病院薬局協議会、市民公開講座などの紹介と、公募シンポジウム54件、公募演題への応募件数が1511件あったこと、また31件の共催セミナーを組むことができたが企業展示への応募状況が進んでいないことなどが報告された。

山田（清）理事より、なるべく協賛及び寄付収益に依存しない年会の運営を念頭に、会費収益による運営に鑑み年会参加費の設定の見直しに言及する意見があった。協議した結果、年会参加費の設定については、これまでの年会の収支状況及び参加者数などを分析し、年会あり方委員会などで協議する方針となった。

(2) 第1回フレッシュャーズ・カンファランス開催準備状況報告

大谷理事より、6月25日（日）に開催する第1回フレッシュャーズ・カンファランスの開催概要が紹介された。演題の登録状況として、全国各地から61件（口頭：26題、ポスター：35題）の応募があったことが報告された。

(3) 第1回医療薬学教育セミナーの開催報告

伊藤理事より、医療薬学教育委員会の企画として本年4月16日（日）に開催した第1回医療薬学教育セミナーの開催報告として、当日は364名の参加があり、また参加者から回答を得たアンケートの調査結果が報告された。なお、本調査より、研究テーマの

見つけ方、倫理審査、論文の書き方が分からないなどの回答や、統計解析や英語に不安があること、薬局での研究についても教えてほしいなどの回答があり、第 2 回目の本セミナーの開催及び企画を含め、医療薬学教育委員会での検討課題として取り上げ協議する方針が述べられた。

(4) 各委員会報告

1) 平成 29 年度第 1 回大学教員認定制度検討 WG

議長より、第 1 回大学教員認定制度検討 WG の議事録を基に、本 WG で検討している認定制度では、臨床業務を継続的に実践している一定レベルの経験・実績、能力を求め、また本学会認定薬剤師の認定要件をベースに学生に対する臨床教育の実績や病院の職員とのコンサルテーションなどを付加することなどの検討経過などが報告された。

2) 薬物療法専門薬剤師研修小委員会

議長より、第 1 回薬物療法専門薬剤師研修小委員会の議事録を基に議事経過として、今年度第 1 回目の薬物療法専門薬剤師集中講義への対応や、次年度の当該講義の開催計画などの議論があったことが報告された。

(5) 後援依頼

議長より、本学会への後援依頼及び広報の依頼があった次の 7 件について、了承回答した旨の報告があった。

- ・「PLCM 研究会_第 2 回実習講習会」(PLCM(耕薬)研究会)
- ・「第 18 回臨床腫瘍夏期セミナー」(東京がん化学療法研究会)
- ・「第 10 回日本在宅薬学会学術大会」(日本在宅薬学会)
- ・「第 12 回日本薬局管理学会研究会年会」(日本薬局管理学会)
- ・「医療従事者向けセミナー2017」(日本肺癌学会)
- ・「第 15 回日本癌治療学会アップデート教育コース」(癌治療学会)
- ・「第 22 回オンコロジーセミナー」(NPO 法人がん医療研修機構)

(6) その他

峯村理事より、現在、出版委員会で対応している疾患別薬物療法のテキストの編集作業に係る報告があり、分冊のうちの幾つかの巻については、幾分、編集・査読に遅れが見られるが、概ねスケジュール通りに当該作業が進んでいることが報告された。

また、大石監事より、年会の参加費と協賛・寄付による運営に係る意見として、過去の実績に基づいた分析と将来的な予測をたてること、ランチョンセミナーのあり方(弁当の提供)など含めた検討の必要性が述べられた。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は 16 時 30 分に閉会を宣言し、解散した。